

## 高市首相を表敬訪問

日時：2026年2月25日(水)  
場所：首相官邸

茂木哲也会長、南成人協会会長、南幸治囲む会会長、秋山修一郎幹事長は、自民党の公認会計士国会議員等とともに高市首相を表敬訪問し、今回の衆議院議員選挙結果への祝意と、協会の今後の取り組みについてお伝えしました。



武村展英 衆議院議員

若林健太 衆議院議員

鷲尾英一郎 衆議院議員

高市早苗 内閣総理大臣

古賀 篤 衆議院議員

塩崎彰久 衆議院議員

### ◎第23回 政治連盟囲む会インタビュー

## AI戦略で日本を「世界のハブ」に

「政治家は資金繰りをしたことがないからのんびりしている」と語る平議員。コロナ禍での金融支援、デジタル庁創設のスピード感・実行力は圧倒的でした。なぜ平議員はデジタル政策で存在感を放つのか。プレーンとなるエコシステムを教えてくださいました。

ゲスト：衆議院議員 **平 将明**

### 商売は資金繰りで動く

**藤好** 平議員と初めてお会いしたのは、大森のロータリークラブでした。

**平** 私がロータリークラブに入ったのが28歳です。大田市場で野菜の仲卸をしていた父が病気になって、急きょ後を継ぎました。バブルが崩壊して景気が悪くなる中で継いだので、厳しかったですね。

大田市場は市場の中の市場で、朝が早いのではなく、夜から仕事なのです。夜11時ぐらいに会社に行って、フォークリフトでキャベツを運んだり三輪車(モトラ)で荷物を運んだり、競りをして営業して、その後、経営者の仕事をします。1日13時間ぐらい働いていました。売上36億円ぐらいの会社を受け継いで28億円ぐらいまで整理し、それから10年で68億円ぐらいまで

伸ばしました。

その間に山一証券など金融機関の破綻がありました。せいか信用組合と神田信用金庫からお金を借りていて、それが両方破綻してしまっ。リステや、売り先を回って支払サイトを短くしてくれと交渉してなんとか持ち堪えました。

こういうのは、政治家はわからないだろうなと思ったのです。官僚出身だったり世襲だったりして、資金繰りをしたことがないから、のんびりしています。僕らは時計が資金繰りで動いているから、スピード感が合わない。それが政治家になろうと思った一つのきっかけです。

もう一つは、大田区の青年会議所の委員長の時、政治家は名前の連呼ばかりで、アメリカのような討論がない。そこで、2000年に東京23区で初めて公開討論会を開催しました。2005年の小泉郵政選挙

では、私は自民党の公募に応募して選ばれ、自分がつくった公開討論会に候補者として出たのです。

**藤好** 平さんが立候補したと聞いて、「これはもう応援しよう」と思いましたよ。

**平** 公募で選ばれたのが、投票日の25日前でした。普通は町の有力者に挨拶して、2年ぐらい街頭演説するわけですが、私は挨拶も根回しもする前にバッジをつけたので、地域の目は冷たかったです。「誰だお前は、俺に挨拶もなく」と(笑)。2年ぐらいそんな感じだったかな。

### GPIF改革とコロナ対応

**藤好** 国政で印象に残っていることは何ですか。

**平** 一番大きいのは、GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)が2014年から

2015年にポートフォリオを変えたことです。外資系投資会社で活躍していた日本人をスカウトしてGPIFの最高投資責任者に就任してもらったところ、「ESG投資をポートフォリオに反映したい」「政府のインフレ目標2%を達成するためには投資の多様化をするべきだ」と相談を受けたのです。それで投資のポートフォリオの多様化と、ESG投資を応援しました。

厚労省は国債で安全に運用する考えなので反対でした。でも、それは「むしろ安全ではない」というロジックで、今のポートフォリオの原型をつくったわけです。野党からは「博打」と言われましたけど、結果として当時140兆円だったものが今は280兆円です。十分な成果を出しています。

もう一つは2020年初頭、政府でコロナの影響について議論していた時です。私は、商売の危機はすぐに来ると分かりまし

たから、リーマン・ショック並みのフルスペックの金融支援をすぐにすべきだと声高に言って、特別政府保証やセーフティネット貸付、資本性ローンを進めましょと言ったのです。当時、私はデジタルや防災の副大臣で、いわば領空侵犯だったけれど、資本性ローンは政治家は分からないし誰も言い出さないから、自分がやらなきゃダメだと思って横断的に口を出していきました。

### なぜ平議員はデジタルに強いのか

**小山** いつ頃からデジタルに強くなったのですか。

**平** 特にコロナの時にマイナンバーカードの普及が必要だと気づきました。その司令塔としてデジタル庁を2020年に当時の菅官房長官に提案し、党からも平井議員たちが提案して、わずか10カ月でデジタル庁が立ち上がりました。

その後はスタートダッシュで、約1700ある自治体の20業務を標準化してガバメント



#### Profile

1967年2月21日生まれ。早稲田大学法学部卒。大田青果市場仲卸三代目。元 東京青年会議所理事長。2005年、初当選政治家に。デジタル大臣、サイバー安全保障担当大臣、デジタル行政改革担当大臣など歴任。現在、自由民主党 国家サイバーセキュリティ戦略本部長、デジタル社会推進本部本部長代行およびAI・web3小委員会委員長。衆議院議員(8期)

クラウドに載せる、さらにそこに政府AIを入れたわけです。平賀源内から名前を取って「源内」。今やデジタル庁の大臣答弁の下書きはAIが書いています。それを今年、全省庁に水平展開します。マイナンバーカードも1億人を超え、保険証や免許証との一体化も始まり、この1年はすごく進みました。

**小山** 相当勉強もされたのでしょうか。

**平** 良い人脈を持っていたのです。Web3やブロックチェーンのグループがあって、そこには日本のトップ人材が全員入っています。ヨーロッパ、アメリカなど海外にいる人も多く、何か事象があるとわーっとネット上で議論が起こるわけです。私が「よく知っているね」と言われるのは、リアルタイムに一次情報が入ってくるエコシステムが、サイバー空間で出来上がっているからなんです。AIについては2023年1月に「AIの進化と実装に関するプロジェクトチーム」をつかって、3月末にホワイトペーパーを出しました。その過程でサム・アルトマンともリモート会議をしました。リアルな世界だけで活動している政治家と比べて、ローメーカーとしての能力はすごく開いていると思います。

**茂木** そのエコシステムはどうやってつくり上げたのですか。

**平** 日本版ダボス会議と言われるカンファレンスがあって、そこでは起業家、政治家、官僚、インフルエンサーなどが集まって、ずっと議論をしています。それが15年ぐらい続いていて、みんな何かしたい時に、「平さんに相談するのが一番早い」と思ってくれています。私はすぐに答えを返すし、実現が早い。そこが評価されているのだと思います。

### 日本はAIの「第3極」を狙えるか

**茂木** 今後取り組みたいことは何ですか。



平 将明 衆議院議員

写真左から：八木茂樹(日本公認会計士政治連盟東京会会長)、茂木哲也(日本公認会計士政治連盟会長)、平 将明 衆議院議員、藤好優臣(囲む会会長)、小山恭史(囲む会幹事長)

**平** まず喫緊の課題としてサイバーセキュリティです。いま法律で、政府や自衛隊、基幹インフラのサーバーは守りますが、その下のレイヤー、特に中小企業をどう守るかが課題です。

経産省の下IPA(情報処理推進機構)が1万円ほどで見守り、駆けつけ、保険までセットした「サイバーセキュリティお助け隊サービス」というメニューをつかって、まずは使ってみてくださいと言っています。それでフィードバックをもらい、中小企業のCISO(サイバーセキュリティオフィサー)をAIエージェントが担うシステムをつくらうと考えています。

それとAI戦略を進めたい。日本のAI政策は世界で高く評価されています。インドは日本方式を取り入れて法律をつくる方向です。AIは米中の2強ですが、第3極を日本、もしくは日本とインドと一緒に取りに行くことを、進めないといけなと思っています。

**茂木** 日本が評価されているポイントはどこですか。

**平** レギュレーションです。アメリカはビッグテックが主導していて、ヨーロッパは法律で細かく規制しています。官僚に任せるとヨ

ーロッパを見習うので、私はそうしないと決めました。ガイドラインで柔軟に、アジャイルに進める。知財も、ネット上にあるものは基本、日本は自由に読めます。ただ、出てきたものが知財違反だったらアウト、と整理をしました。

ですから、AIが学習しやすくして実装しやすい。ローメーカーもテクノロジーに詳しいから投資しやすい。日本は、AIのハブになる可能性があるということです。

**八木** 我々の業界もAI監査が進んでいます。公認会計士業界に対して期待することをお話いただけますか。

**平** AI経済圏が広がっていく中で、会計のルールや実務をどうアジャストしていくかが重要だと思います。一つ大事なことは、AIはすごいけれど、責任が取れません。AIは必ず人間が入らないと回らない。「ヒューマン・イン・ザ・ループ」と言います。大臣答弁も、下書きはAIが書きますが、私の口から出た瞬間、それは私の責任です。

**八木** 我々も人間の目で見ないといけないことはまだ多いと感じていますが、先進的に取り組んでいきたいと思っています。本日は貴重なお話をありがとうございました。

## 活動報告

肩書は開催日時点のもです。



古川元久 衆議院議員

## 「古川元久を囲む公認会計士の会」勉強会を開催

2025年10月21日

2025年10月21日、日本公認会計士協会東海会セミナールームにて、「古川元久を囲む公認会計士の会」勉強会が開催され、約20名が参加した。この日は、高市早苗議員が首班指名を受けた国会開催日という多忙な中、古川議員は国会終了後に名古屋入りされ、当勉強会に登壇いただいた。

講演では、AIによる行政や専門職の業務改革、政治資金の透明化の必要性、自

民党総裁選をめぐる政治再編の行方など、幅広いテーマについて具体例を交えて解説。特にAI活用による事務コスト削減や、政治資金監視体制における公認会計士の役割を強調された。

限られた時間ながらも充実した内容となり、参加者からは「現場の視点で国政の今を知ることができた」、「政策議論の深さに感銘を受けた」といった声が寄せられた。



上野賢一郎 衆議院議員

## 「うえの賢一郎を囲む公認会計士の会」第8回通常総会開催

2025年11月8日

2025年11月8日に「うえの賢一郎を囲む公認会計士の会」第8回通常総会が開催された。囲む会の内海靖会長、本部政治連盟からは秋山修一郎幹事長及び鶴田光夫副会長の出席があり、計17名の公認会計士が参加した。

総会議事後、うえの議員から、高市内閣の厚生労働大臣に就任し、労働者の処

遇改善、ドラッグ・ロスの問題及び予防医療等の対応について検討を重ね進めている旨報告があり、精力的に活動されている姿に感銘を受けた。

その後に開催された懇親会では、時間の許す限り会員一人一人と会計士の業務や地域経済等に関して懇談され、囲む会は盛会裏に終了した。